



### 釧路湿原と釧路川

某TV番組で故・火野正平さんが「ここ、ええところや～」と評した高台へ。

眼下には釧路川、その先には広大な釧路湿原が見渡せる。手前の黄色のコントラストが非常に美しい、とは言ってられない。

この黄色はすべて特定外来生物オオハンゴンソウであった。繁殖力と分布拡大のすさまじさを目の当たりにすると戦慄さえ覚える。



## 塘路フィールドノート【7/15~8/14】

### 【野鳥】

本州以南では猛暑やゲリラ豪雨のニュースが多いこの夏ですが、ここ釧路湿原でも 30℃を超える日がやってきてしまい外へ出ることが危険な状況もありました。野鳥たちがその気温をどう感じているのか気になるところです。



マガモ (塘路湖)

夕日の当たる岸に集合。オスの婚姻色が薄れ始めている。カモ科



アカエリカイツブリ (サルルン沼)

ヒナの姿が見えず、一度失敗して再度繁殖を試みているかもしれない。カイツブリ科



クマゲラ (塘路原野)

センター近くの高い木から盛んにキョーンという鳴き声を響かせていた。キツツキ科



コゲラ (塘路湖畔)

キツツキ類の中では最小。鳴き声はギーまたは甲高くキッキキッキ。キツツキ科



タンチョウ (コッタロ原野)

見晴らしの良い原野で食事中。離着陸は芸術的なほど動作がシンクロする。ツル科



アオサギ (塘路湖)

繁殖期も終了。水中の魚類などを待ち伏せている間はピクリとも動かない。サギ科

## 【植物】

塘路湖周辺では植物たちも順調に実を付けていますが、結実時期が若干早めの印象を受けます。猛暑ありの集中豪雨ありの極端な天候が今後どのように植物に影響するか気になります。



クサフジ (草藤)

羽状複葉のツル性多年草。若葉を食用とする他、毒のある種子も炒ると可食。マメ科



ツリバナ (吊花)

秋にかけて実が赤くなる。筋肉麻痺を起こすアルカロイド系の毒を持つ。ニシキギ科



エゾベニヒツジグサ (蝦夷紅羊草)

花期は長く9月まで。果実は水中で熟す。今年は花がやや少なめな印象。スイレン科



ミツバウツギ (三葉空木)

三出複葉で枝は空洞。若葉は山菜として食用。種子から油がとれる。ミツバウツギ科



ノリウツギ (糊空木)

和名は樹幹が空洞であり、樹皮を和紙をすくときの糊として使ったから。アジサイ科



エゾニワトコ (蝦夷接骨木)

茎、葉は薬用に用いられてきた。果実は生食でき果実酒にも利用される。スイカズラ科

## 【昆虫・哺乳類・両生類】

猛暑でセミの声が少ないような印象ですが、キリギリスの鳴き声は昼夜問わず、チョウ類の飛翔も多く見られ、トンボも至る所で活動しています。暑い日にはかならずと言っていいほどエゾシカが水中にいます。



ヒメゲナガカミキリ (茅沼)

長く縞のある触角が特徴。落葉広葉樹の倒木などに集まる。カミキリムシ科



コキマダラセセリ (サルルン沼周辺)

北海道では平地でも見られるが、中部地方以西では山地性。セセリチョウ科



クロイトトンボ (塘路湖畔)

平地から山地まで広範囲に分布。連結したペアも湖面で見られる。イトトンボ科



ヒメクサキリ (塘路湖畔)

湿った草地を好み「ジー」という途切れの音で鳴く。キリギリス科



エゾシカ (塘路湖)

夏の風物詩としてすっかり定着した水中のエゾシカ。水草が好物。シカ科



エゾアカガエル (茅沼)

他のアカガエルに比べて後ろ脚が短い。寿命は約5年程度。アカガエル科

## ◎「夏休み！塘路湖畔の昆虫を探そう」を開催しました

7月26日、塘路湖畔に暮らす昆虫の観察会を実施しました。水辺では魚とり網で水草に隠れて暮らすミズカマキリやイトトンボの幼虫（ヤゴ）を観察しました。弱らないうちに水辺に放し、次に樹液に集まる昆虫を観察しました。エルタテハやクスサンの幼虫を確認し、今年大量発生しているマイマイガについても解説しました。遺跡の近くではトラップの仕組みを学ぶためにFIT（フライングインターセプトトラップ）やPT（ピットホールトラップ）の掛け方やそれぞれのトラップにどのような昆虫が入るのかなどを解説。落ちた昆虫を皆でリリースしました。樹液やホザキシモツケに集まる昆虫を観察したあとは、レクチャールームに戻ってクワガタムシの標本作成を経験しました。

【釧路市立博物館との共催行事】

参加者 13名



標本作り&アカハナカミキリ

## 9月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

### 野生生物の「擬態」を見て歩こう

[日 時] 9月27日（土）10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

### アイヌの人々が利用した植物

[日 時] 9月7日（日）10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター周辺

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター（0154-65-2323）まで

◆日出・日入時間 7/31(4:10,18:45). 8/15(4:26,18:25). 8/31(4:44,17:59)

～指導員の独り言～

■この1年ほど米価がニュースになった年はないだろう。いまでこそ米どころ北海道としての地位を築いているが、その歩みは苦労の連続だった。釧路地域でも明治末期に稲作に挑戦し、大正3年に現在の釧路市桜田地区で成功したという記録が残っている。昭和27年まで盛んだった釧路の稲作だったが、翌年以降の連続した冷害により水稻栽培は年々減少、その後姿を消したという。北海道の稲作の歴史を知るにつれ、何かに挑戦するエネルギーが自分にあるのか問いかけてみる。 (M)

### 釧路湿原国立公園

#### 塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野  
TEL：015-487-3003 FAX：015-487-3004  
E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間：10：00～17：00

(11～3月：16：00まで)

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料